



WOMEN'S ALL★STAR GAME2021

3月20～21日 北小金ボウル

3冠女王・姫路を撃破！ 丹羽由香梨が涙の初V

今年もJPBAレギュラーツアーの開幕戦となった女子プロオールスターゲーム。1月7日、新型コロナウイルスの感染再拡大によって首都圏の1都3県を対象に発出された緊急事態宣言を受け、2月第1週開催の予定を1カ月半繰り下げたが、残念ながら宣言期間の延長で無観客試合に。代わって全国のファン・関係者から贈られた応援の祝花(3月20日集計時点で213体)が会場を埋め尽くすなか、永久シード3名、主催者推薦1名を含む総勢24名の女子プロが2日間にわたって熱投を繰り広げた。

(主催：北小金ボウル)

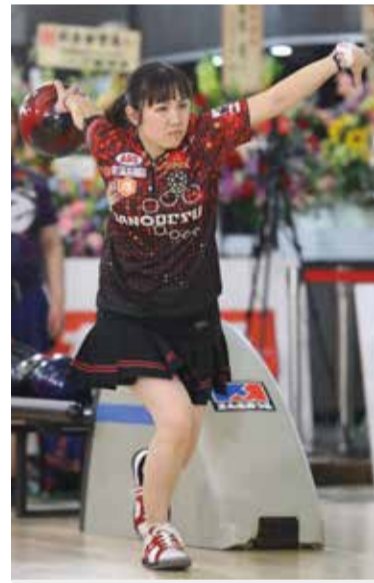


▲プロ20年目にして悲願の初Vを達成した丹羽(後ろ姿)を敗者・姫路が祝福の拍手で迎えた

◀ポジションマッチで姫路に完敗し、2位→4位と順位を下げてTV決勝に臨んだ丹羽だが、結果的には同じレーンで5Gを投げ、だれよりもコンディションの変化に対応できたことが勝因となった

総当たりラウンドロビンでTV決勝進出の5枠を争う予選ラウンドでは、現在ポイント、アベレージ、獲得賞金のランキング3部門でトップを走る“絶対女王”姫路麗(33期)が異次元の強さを発揮。19勝5敗、アベレージ230.41で唯一人4ケタのポイント(1300)を獲得し、トップシードで昨年準Vのリベンジ&2年ぶり2度目の大会制覇に王手をかけた。

2位以下は、最終ポジションマッチ前の時点で8名が勝ち上がりの可能性を残す大接戦となったが、2位・佐藤まさみ(42期)、3位・本間由佳梨(46期)、4位・丹羽由香梨(35期)、5位・浅田梨奈(48期)の順で結着。前年覇者の坂本かや(49期)は10勝14敗(206.58Avg)



▲4位敗退の本間は「レーンの変化を読み切れなかった。少し難しく考え過ぎちゃったかも」と苦笑いのなかに悔しさをにじませた

と予想外に振るわず、総合14位で無念の敗退となった。

TV決勝

5位決定戦は、9位で臨んだポジションマッチ(以下PM)で290のビッグゲームを叩き出し、末席の5位に滑り込んだ浅田と、逆に2位→4位と順位を落とした丹羽の対戦。PMで同じレーンを投げた丹羽は、リオイルされていないコンディションにいち早く対応し、3フレからの6連発で8フレまでに3マークのリード。唯一のミスショットで③⑥⑩を残した9フレをオープンとし、ファウンデーションの浅田に逆転の余地を与えるも、10フレはともにストライク→9本スペア。丹羽が233:226と7ピン差で逃げ切った。

本間との4位決定戦でも、丹羽は狙ったラインを外さない安

定した投球を続け、ノーミスの229でフィニッシュ。一方の本間はレーンコンディションをつかみ切れぬまま、終始迷いながら投げた印象で、1投目にミスショットを連発。4、7フレのスプリットオープンで万事休し、3位入賞を果たした昨年から一步後退の4位に終わった(最終スコアは175)。

続く佐藤VS丹羽の3位決定戦は、今大会のTV決勝で一番の接戦となった。レーンの変化が加速したこともあってお互いにストライクが続かず、1フレ④⑥⑦スプリットオープンの佐藤が1マーク差を追いかける展開で終盤へ。

9フレ&10フレ1投目でもともに初のダブル。佐藤が逆転するには2投目のストライク=ターキーが必須の状況となったが、運命の一投は無情にも⑩ピンタップ。後投げの丹羽が⑦⑩と

大きく割ったのは、勝利が確定して安堵したかための“ご愛敬”といえるだろう(203:198)。

そして迎えた優勝決定戦。佐藤とのしびれる接戦を制した丹羽は「相手は姫路プロ。一つでもミスしたら、必ずそこを突いてくるのでスキは見せられないと思った」と、さらにギアを上げた。

4連発スタートを決めた丹羽に対し、左レーンスタートを選択した姫路の2フレはまさかの④⑥スプリット(2投目④ピンを残してオープンフレームに)。ミスはこのフレームだけだったが、追いかける展開になったことで投球に力みが生じたか、7フレまでストライクは単発の3個にとどまった。

気がつけば5フレの9本スペアを挟んで再びストライクラッシュに転じた丹羽に大差をつけられ、勝負はファウンデーションフレームを待たず



◀この日が誕生日だった姫路だが、バースデーVは成らず。25回優勝しているけど、きょうで準優勝も17回。それを思えば丹羽プロの1勝は重いと勝者を称えた

に決した。それでも姫路は8フレから意地のオールウェーでフィニッシュ。最後に女王らしさを発揮してみせたのはさすがだった(277:217)。公式戦上位常連の丹羽だが、今回は初優勝。プロ20年目の悲願達成に、その両眼には涙があふれた。(優勝ボール：ハンマーウェブM. B.)



▲「勝負の一投(10フレ2投目)でストライクを持ってこれなかったのが反省点」と浅田。それでも2年連続14位だった大会での5位入賞を「次につながる結果」と喜んだ

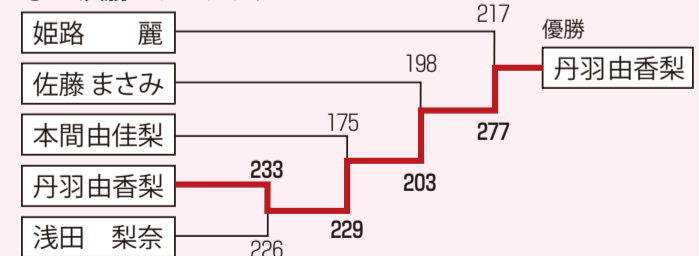


▲丹羽に競り負けて3位の佐藤。「右レーンのほうが変化が速いと感じたので、左レーンが10フレになる選択をしたけれど、途中で左レーンのほうが難しくなりました」



▲今大会出場の24選手が試合終了後、ノーサイドで記念撮影

●TV決勝ステップラダー



●優勝決定戦

丹羽由香梨	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計
	30	60	89	109	129	159	189	219	249	277	8
姫路 麗	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計
	19	28	48	67	87	107	127	157	187	217	8